

1 単元名 読んで、考えたことを発表しよう 「海をかつとばせ」

「読むこと」と「書くこと」の複合単元として位置付けています。

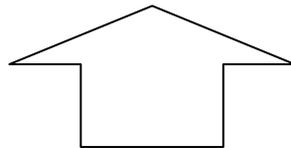
2 単元の目標

- (1) 登場人物と自分を比べながら読もうとする。 (関心・意欲・態度)
- (2) 会話や行動を表す文や語句から、登場人物の性格や気持ちの変化を想像しながら読むことができる。 (読むこと)
- (3) 主人公と自分を比べながら読み、自分について考えることができる。 (読むこと)
- (4) 条件に合わせて文章を書くことができる。 (書くこと)
- (5) 書いたものを読み合い、一人一人の感じ方の違いについて気付くことができる。 (書くこと)

3 目指す子どもを育てるために

① 単元で目指す子ども像

◎ 場面の移り変わりや登場人物の性格や気持ちの変化を想像し、自分と比べながら読み、考えを交流する活動を通して、一人一人の感じ方の違いを大切にしながら読書を楽しむことができる子ども

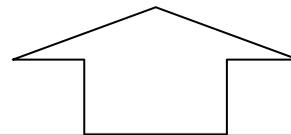


② 単元を貫く言語活動

言語活動：物語の主人公と自分をくらべながら読み、考えを伝え合おう

◎本時で身に付けさせたい「言語活動を行う能力」

○登場人物と自分を比べながら読み、登場人物と自分の共通点や相違点を考える力



③子どもの実態

- 文章の大まかな内容や想像を広げながら読み取ることができ、感じたことを素直に話したり、短い感想を書いたりすることができる。
- 友だちの考えを共感的に聞くことができ、そのよさを認めることもできる。
- 書いたものを読み合う活動を通して、友だちの様々な感じ方にふれることにより、交流することを楽しむことができるようになってきた。
- 作文を書く時に「会話文を入れること」「順番が分かる言葉を使うこと」「理由を二つ書くこと」などの条件を与えることにより、読み手によく伝わる文章を書くことができる子どもが増えた。
- 心情表現、行動を表す文や語句などを抜き出すことが苦手な子どもが多い。
- 自分の考えを明らかにしながら相手に伝えることには少しずつ慣れてきているが、自分の経験や体験とつなげて書いたり話したりすることには、まだ慣れていない。

単元の目標との関連で実態をとらえています。

4 学習計画

(総時数8時間)

時数	学習活動	関意	話聞	書く	読む	言語	評価規準
1	○ 2年生で学習した「お手紙」の内容を振り返り、登場人物と教師自身の子どもの頃や自分自身と比べながら、作品から学んだことを出し合い、学習の見通しをもち、並行読書の計画を立てる。	○					○ 登場人物を自分と比べながら読み進めていくことが分かり、学習の見通しを持つようとしている。
2	○ 「海をかつとばせ」を読み、新出漢字の練習や難しい言葉の意味を調べる。					○	○ 新出漢字の読み書き、難語句の意味が分かる。
3	○ 「海をかつとばせ」と「つり橋わたれ」を通読し、出来事について対比しながら、表にまとめる。					○	○ 「海をかつとばせ」と「つり橋わたれ」の場面の移り変わりを捉え、表や図にまとめている。
4	○ 「海をかつとばせ」と「つり橋わたれ」の主人公の性格、気持ちの変化を対比しながら表にまとめる。					○	○ 会話や行動を表す文や語句から、主人公の性格や気持ちの変化を対比しながら、表や図にまとめることができる。
5 (本時)	○ ワタルと自分、トッコと自分を比べ、似ている所や違う所を簡単なメモにする。					○	○ 主人公と自分を比べ、共通点や相違点を考え、交流メモを書いている。
6	○ メモをもとに、グループで交流し、友だちの考えに対して自分の考えを述べる。					○	○ 交流メモをもとに考えを伝え合い、友だちと自分の考え方の違いに気付くことができる。
7	○ 書き方の条件を知り、登場人物に対する自分の考えを書く。				○		○ 書こうとする中心を明確にし、条件に合わせた文章を書いている。
8	○ 同じ本を読んだ者同士で書いたものを読み合い意見を述べ合う。	○		○			○ 友だちは、どの登場人物のどんな所と比べているのか関心を持って聞きこうとしている。 ○ 書いたものを読み合い、感じ方の違いを考えながら意見を伝え合っている。

既習の学習内容を使って、意欲の喚起と学習の見通しを持たせています。

他の作品との読み比べを取り入れています。
並行読書を位置付けています。

並行読書

言語活動：物語の主人公と自分をくらべながら読み、考えを伝え合おう

～指導要領 「読むこと」

言語活動例：ア 物語や詩を読み、感想を述べ合うこと～

第7～8時に単元を貫く言語活動を位置付け、その活動に必要な力を第2～6時で身に付けることができるように計画しています。

5 本時の目標

- 前時までにまとめた表や図から、主人公と自分とを比べ共通点や相違点を見つけ、交流メモを書くことができる。(読むこと)

6 学習過程

時間	学習活動・内容	○ 教師の支援 □ 評価
10	<p>1 前時の学習を振り返り、本時の学習のめあてをつかむ。</p> <p>(1) ワタルやトッコは、どんな子だったのかを振り返る。</p> <p>(2) 本時の学習のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「ワタルと自分」「トッコと自分」には、にている所やちがう所はないかな。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主人公と似た行動をとったり、似た気持ちになったりしたことはないか、また違う気持ちになったり、違う行動をすることはないかを問うことにより、自分と比べて考えることを意識させる。 ○ 本時は、ワタルと自分、トッコと自分の似ている所や違う所を見付けていくために、二人の主人公の会話や行動に着目しながら、自分と比べていくという見通しを持たせる。 <div style="background-color: yellow; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>本時の読みの視点を明らかにした課題を設定しています。</p> </div>
25	<p>2 ワタルやトッコと自分を比べ、似ている所や違う所を見つけ、観点に沿ってメモを書く。</p> <p>(1) ワタルとトッコを簡単に比べる。</p> <p>(2) ワークシートに、自分がワタルやトッコと似ている所や違う所を見つけ、付箋紙を貼る。</p> <p>(3) どこに付箋紙をつけたのかを発表する。</p> <p>3 メモを書く観点を知り、自分の考えをメモに書く。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>メモのポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だれとくらべているのか。 ・じぶんとにているのか、ちがうのか。 ・どんな所がにているのか、ちがうのか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ワタルとくらべた。にている。選手になりたいくて、練習をがんばっている所。 ・トッコとくらべた。違う。サブたちに言い返している所。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ワタルとトッコの似ている所や違う所を比べることにより、自分と比べる視点や考え方の見通しを持たせる。 ○ ワークシートに付箋紙を貼ることにより、誰のどんな所と似ているのか、違うのか、またその考えがどこに起因しているかをはっきりさせる。 ○ 数名の考えを拡大したワークシートに貼らせることにより、似ている所や違う所は様々な部分から読み取ることができることに気付かせる。 ○ 教師がメモの書き方を示すことにより、観点に沿って書くことができるようにする。 <div style="background-color: yellow; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>この学習が第7時の言語活動にどのように結びつくのかを明らかにしています。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>○ 3つの観点で書かせる活動は、条件に合わせた文章を書く第7時に生かされる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>○ 主人公と自分を比べ、共通点や相違点を考え、交流メモを書くことができる。(ノート)</p> </div> <div style="background-color: yellow; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>具体的な支援策を持って授業に臨んでいます。</p> </div>
10	<p>4 学習のまとめをする。</p> <p>(1) 学習の感想を書く。</p> <p>(2) 感想を発表する。</p> <p>5 次時の学習の見通しを持つ。</p> <div style="background-color: yellow; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>学習を振り返り、自己の学びの高まりを実感できるようにしています。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主人公と自分を比べることができたか、また、比べながら考えたことは何かなどについて、感想を書かせる。 ○ 自分と同じところや似ているところ、違うところを見付けながら友だちの感想を聞かせる。 ○ 次時では、本時で書いたメモをもとに同じ考えのグループで交流し、友だちの考えに対して自分の意見を述べる学習をすることを伝える。

<板書計画>

海をかつとばせ

⑧ 「ワタルと自分」「トッコと自分」には、
にている所やちがう所はないかな。

学習の進め方

① ワークシートから自分とにている所や
ちがう所を見つけ、ふせん紙をはる。
にている↓ピンク ちがう↓水色

(ワークシートの一部分)

② 自分の考えをメモに書く。

メモのポイント

- だれとくらべているのか。
- 自分とにているのか、ちがうのか。
- どんな所がにているのか、ちがうのか。

○ ワタル
○ にている
○ むちゆうになる所

学習の内容と方法を明らかにすることによって、どの児童も見通しが持てる板書になっています。